

花畑井戸跡

江戸時代（1603-1867）、城には庭師や華道家が常駐し、居室や広間には季節に合わせて花々が飾られていた。昔この場所には花畑があったが、今では井戸の跡が残っているだけである。18世紀中頃の記録によると、シャクナゲ、ハマナス、アジサイ、シヤクヤクなどの花は武将たちに人気があったと言われている。菊や梅の花などのいくつかの花は気品と純粋さを連想させるものであった。武士たちは、萎み始めると花が丸ごと落ちる椿は武士の首が落ちるようで縁起が悪いと考え避けていた。驚いたことには、大名たちの庭にはナスも植えられていたことが記録されており、ナスの栽培で野菜畑は倍の広さになったと言われている。